

新宿区自治基本条例区民討議会第5回準備会

開催日時	平成22年6月29日(火)午後2時~4時30分
会場	区本庁舎6階会議室
出席者	自治基本条例検討連絡会議委員 区民代表委員；高野 健、野尻信江 区議会委員；根本二郎、山田敏行 区職員委員；針谷弘志、菅野秀昭 学識経験者・専門家委員 小針憲一(座長)、吉田純夫
事務局出席者	(検討連絡会議事務局)寺尾善実、宮沢史恵 (NPO まちぼっと)辻 利夫、佐々木貴子

*NPOまちぼっとは、区民討議会・準備会運営の委託事業者

< 議事次第 >

1. 第4回議事概要の確認
*資料1；第4回議事概要案
2. 区民討議会報告(事務局より)・意見交換
*資料2；グループ意見投票結果
*資料3；事前・事後アンケート集計結果
3. 報告書作成の検討
・構成、原稿案の検討
・情報提供としての骨子案の扱い
・概要版の検討
資料4；報告書の構成・原稿案
4. 今後の予定等について確認

< 議事概要 >

(進行；座長)

1. 第4回議事概要の確認

委員から異論なく、第4回準備会議事概要を確定した。

2. 区民討議会報告(事務局より)・意見交換

事務局より討議会の報告。

座長；これまでの市民討議会の事例に比べ、参加者の参加率は最も高い。討議の様様や事後アンケートの自由記入欄の回答などを見ても、新宿区の市民参加への意識の高さがうかがえた。

参加している区民の意識が高く、新宿区がもつ人の資源の高さを実感した。補足説明がテーマに

よって異なり、テーマに沿ったものというより本人の意気込みを述べる場面あり、情報提供の仕方に工夫があってもよかったと思う。

討議会でまとめられた区民の意見をどう反映したかを見せることが大変だと思う。

参加者が興味津々で議論していた。一つのグループで声の大きい人がいてもグループをどんどん変えていくので、どの人も議論に参加できていたとは思いますが、同じ人がいつもグループ発表に出てくる事例が見受けられた。グループの意見をどのように反映するのか、期待に応えないといけない。

1500人への発送で156人の応募は他地域にないきわめて高い参加志望率だ。60名抽選で当日参加が57人と参加率もこれまでで最も高く、区民意識のポテンシャルの高さを感じた。参加者の満足度も高く、よい討議会になったと思う。

全体的に参加者の意識の高く、積極性があった。年齢構成のバランスもよく、真面目に楽しそうに議論していた。アンケートの参加を決めた主な理由で「自分たちの区のこと自分たちで決めていきたい」が最も高い。「今後もこうした討議会を進めた」が57名のうち44名と、意識の高さを感じた。地域自治組織のところは期待して見ていたが、このテーマに対しては参加するメリット論に流れたきらいもあり、ちょっと残念だった。2日間の最後で疲れがでたのかもしれない。

最初こそ不安の内に始まったが、思っていた以上に成功した。ふだん区役所に縁のない人がほとんどだったにもかかわらず、無作為抽出で1500人に選ばれ、さらに抽選で60人に選ばれたので、休むわけにいかない、期待に応えようという意気込みがあったのではないかと。2日目にはどんどん鋭い質問がとびだし、職員としてこれを受けていくのは大変だと思った。

当初、運営について懸念はあったが想定したよりはるかにうまくいった。内容的にも想定したよりはるかに良かった。市民参加を今後進めていく上でとても参考になった。

2グループに分かれていたので、実際に聴けたのは片方のグループだけだが、みんな率直に意見を出していた。ただ、私が期待していた形に意見がまとめられたわけではなかった。自治基本条例というテーマを2日間で6コマでやれるのかという疑問はある。4日間にするとか他の手法を活用するなど必要かもしれない。学校の統廃合のようなはっきりしたテーマのほうがふさわしいかもしれない。まとまった意見をみると有効な手段だが、テーマによっては他の手段のほうがよいかもしれない。報告書の分析と活用が我々のテーマだ。

私は長年、議員として地域を歩いているが、今回の参加者をひとりも知らなかった。傍聴した他の議員も知らないと言っていた。区長に挨拶した人がひとりだけいた。一般の区民から幅広い意見を得ると言う意味では無作為のメリットが良く分かった。多くの方が活発に議論していたが、これが投票率に反映していないのはなぜか。世論調査に振り回されているが、一般の国民が本当は何を考えているのか分かることもあった。みなさんの本心、じかの声をつかむ一つの手法として議会で活用ができないか。議会に関してはこの手法はちょっと怖くもあるが、期待もされているのか、調べたい。

座長；情報提供の在り方にはもうひとひねりあってもよかった。最初の1コマ目は練習と位置付けたが、内容もよくわからないで練習もないと言われた。参加者の意欲が討議を重ねるごとに高まっていくのを感じたが、終了後に3～4人の参加者からもう一度集まって議論することができないのか聞かれた。区政に対する意識の高まりを感じられたので、報告会をする予定はないが、連絡会議で説明会などを開くそうなので、そうした集まりができないか考えていただければと思う。

区事務局；テーマ設定は区民から距離があるのかもしれないと感じている。結果は参加率が高く、熱心な議論が展開され、一つの仕組みとして考えていく必要があると感じた。裏方として、少しハラハラする場面はあった。成果をまとめる際に区民アンケートとの比較などで評価もできるかもしれない。

まちぼつと事務局；話し合いの反映方法が課題だと感じた。その結果によって、市民参加意識が減退することにもつながることがあるので充分気をつけたい。

今回の報告書の反映の仕方はあくまで参考意見ということになる。

事後アンケートに事前に情報提供してほしかったという回答がいくつかあった。テーマによって違うのだろうが、情報提供はそもそもどこまで、どのくらいしたら良いものか。

座長；テーマが分かりやすいものであれば、ほとんどいらないと思う。ある自治体ではテーマである図書館に関する資料、予算など詳細資料を事前配布したが、当日読んできた人は半数以下で、読んだ人と読まない人の議論に差が出ていた。ドイツの場合は4日間なので、1、2日目は情報提供として現場見学や役所に出かけてヒアリングなどをする場合も多い。

事前の学習をしてきて出された意見より、白紙で来て討議したほうが良いのではないか。

3．報告書作成の検討

座長より、報告書の構成案について説明。

- ・自治基本条例の制定の取り組み、検討連絡会議、討議会の討議方法、当日のプログラムなどは、参加者に配布した「討議参加者ハンドブック」とほぼ同等の内容を載せる。
- ・各グループがまとめた討議ボード計60枚の集計を行い、その結果の分析は各テーマごとに見開きで要約を掲載する。グループ別の討議ボードは資料編に載せる。
- ・資料編に参加者の地域構成・属性比率などを載せ、無作為抽出参加者の構成との比較を行う。
- ・参加者名の掲載はフルネームで行う（当日の討議会の最後に掲載は困る人は申し出てくれるようお願いしたが、一人も辞退者はいなかった）。準備会委員名簿も掲載。
- ・参加者の事前と事後アンケートも資料編に掲載する。

非参加者のアンケート（何故参加できないか？を問うたもの）322通をどう扱うか。

座長；集計して掲載する。資料編の参加者一覧の前くらいで良いか。資料の掲載順序を確定したい。

- ・グループ別討議結果60枚、参加者の属性、参加者一覧、参加者アンケート、非参加者アンケート準備会委員の一覧の順で掲載することに決定した。

報告書発行者について準備会が発行するのか、検討連絡会議が発行するのか。一般的には準備会の発行ではないか。

検討連絡会議は報告を受けて検討する立場なので、発行者とするわけにはいかないと思う。

区民アンケートも検討連絡会議名で行っている。討議会の主催である検討連絡会議でよいのではないか。

検討連絡会議のもとで準備会がまとめているから、検討連絡会議発行でいいと思う。

座長；ドイツでは参加者がまとめ、それを行政に提出する形である。今回は基本的には主催した検討連絡会議で良いと思うが、書き方が変わってくる。報告書冒頭の自治基本条例制定の取り組みは、検討連絡会議がまとめているものを載せるべきだろう。

事務局；情報提供された骨子案の資料は載せるのか。

座長；討議ボードには「現行案でいい」「骨子案に挿入する」などの意見があり、情報提供された骨子案を載せないと、討議の内容が一般の区民には分からないと思う。ページ数が大幅に増えることがなければ、資料編の最初、討議結果の前に情報提供された骨子案を載せることとする。

事務局；ページ数はそれほどないので、載せることは可能である。

座長；討議結果のまとめと分析について、まとめ方は各グループの意見ごとに小分けにするのか、ある程度内容の近いものをまとめて得票数を出すのか。たたき台では大项目的に分類してまとめて

みた。

区民の責務のAグループのまとめでは、ざっくりまとめて37件とされているが、内容的に異なっているように思う。

そのまとめ方は大雑把過ぎると思う。無理にまとめるよりも小分けしたほうが正確ではある。もう少し細かく分けても良いのではないか。

各ポストイットの意見をグループの意見にまとめ、さらにここで大きくまとめると、元のポストイットで出された意見との関係性が薄れるということもある。小分けしたほうがグループの意見が反映されていると思うが、意見を細かく一つずつ小分けして見ていくのも難しいと思う。

文言と文脈で判断してある程度、中項目的にまとめられるものはまとめて出したほうがよいのではないか。確かにこのほうが読みやすくないか。

区民検討会議ではKJ法で意見を整理して、大項目、中項目に分けている。討議会の項目数ならもう少し小分けにしてもいいかもしれない。

座長；文言と文脈から判断して、意見の内容が一致している意見はまとめて、得票数を合算する。一致とまで判断できないが、近いことを言っている意見同士は並べて載せることにしたい。討議ボードやアンケートの自由記入のところは、明らかな誤字、脱字などを直すにとどめ、本人の言葉はなるべくそのまま、平仮名表記はそのまま、生かすこととする。

どういう分け方で区分けしたのかを、注意書きしてもらいたい。

座長；まとめた意見をどう分析して、どう読み取ったのかを、参加者に代わって公的にいうことはできない。それは討議内容に対する介入になる。報告書では、こういう意見が出ているということをもとめる形になることをご理解いただきたい。

区事務局；予算の範囲内で概要版を作る。地域懇談会などで概要版を配布する。7月15日の検討連絡会議ではこの報告書に基づいて検討することになる。